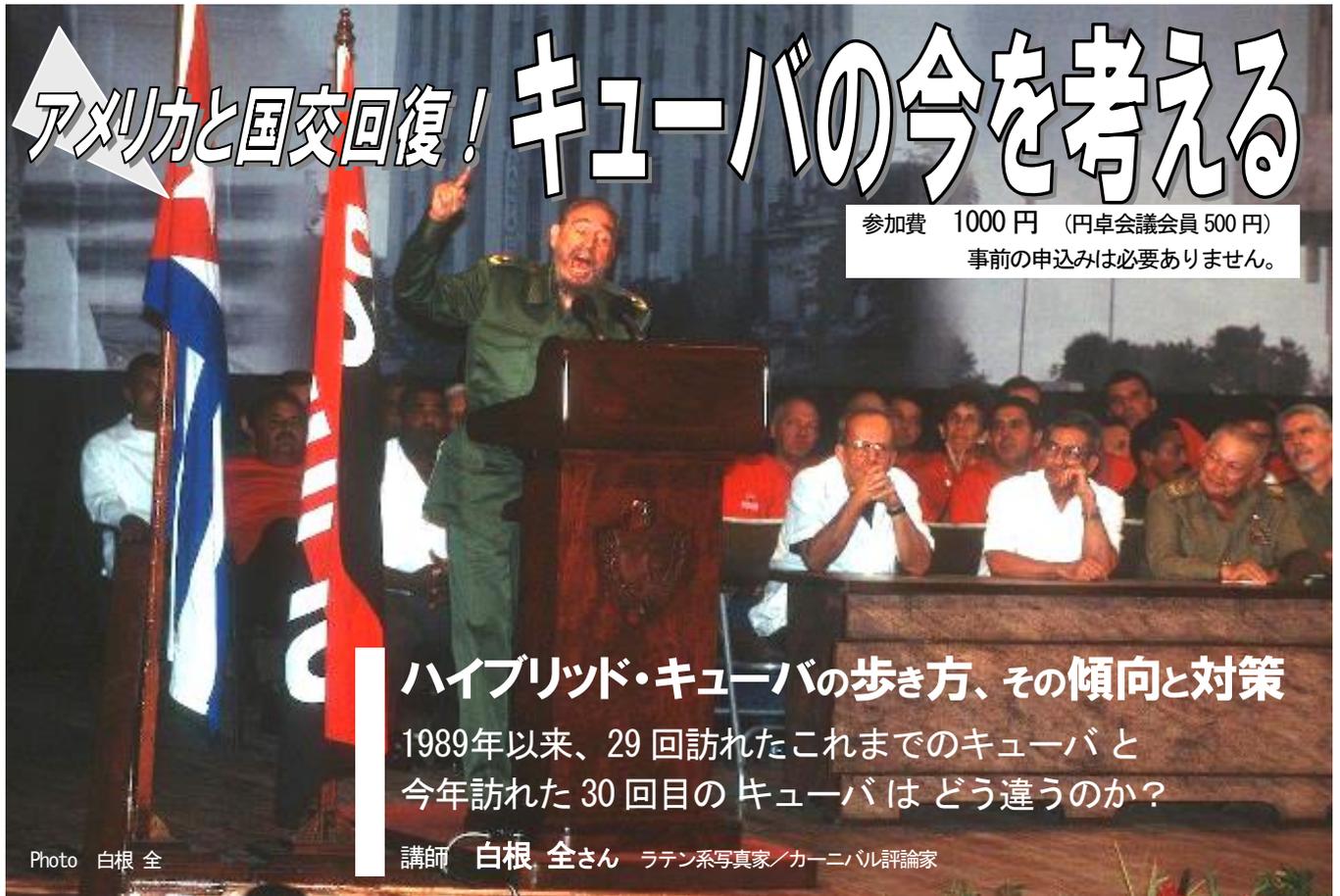


2015 キューバ友好フォーラム

12月19日(土) 13:00~16:00 開場 12:30

会場

日本記者クラブ大会議室 TEL 03-3503-2721 東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル9階
最寄り駅は東京メトロ千代田線・日比谷線霞ヶ関駅、東京メトロ丸ノ内線霞ヶ関駅、都営三田線内幸町駅、JR新橋駅日比谷口



アメリカと国交回復! キューバの今を考える

参加費 1000円 (円卓会議会員 500円)
事前の申込みは必要ありません。

ハイブリッド・キューバの歩き方、その傾向と対策

1989年以来、29回訪れたこれまでのキューバと今年訪れた30回目のキューバはどう違うのか?

講師 白根 全さん ラテン系写真家/カーニバル評論家

Photo 白根 全

しらね ぜん

日本で唯一、世界中でも2人しかいないカーニバル評論家、ラテン系写真家。仕事(撮影取材調査渉外観察記録編集企画制作など)、その他(探検冒険踏破潜入縦断横断登攀釣魚沈没など)、さまざまな理由で現地に入り浸っている。

人類400万年の旅グレートジャーニーのサポート、コーディネーターも担当。これまでに訪れた国は6大陸、150カ国超。ラテンアメリカとカリブ海域の主なカーニバルはすべて制覇。定点観測と路上観察を続けているキューバは、1989年以来この夏で30回目の訪問をマークした。東京出身。青山学院大学卒。



♪どなたでも参加できます♪ お友達を誘ってご参加ください★

お問い合わせはFAXかe-mailで下記へ。

キューバ友好円卓会議 〒157-0073 東京都世田谷区砧 8-15-14-101
FAX 03 - 3415 - 9292 e-mail : cuba.entaku.0803@gmail.com

9月8～9日／第7回アジア太平洋地域キューバ連帯会議（ベトナム・ハノイ）に参加して

キューバの現実を伝える闘いはこれから

報告 井ノ上節子（栃木県）



18 か国から 220 人、日本から 17 人

9月7日、ベトナムのハノイ・ドイバイ空港から、迎えるワゴン車に揺られ1時間あまり。着いた先は、MELIA Aホテルだった。ここで、8、9両日にわたり、アジア太平洋地域のキューバ連帯会議が行われた。

主催者発表によれば、参加は、18 か国から 220 人に及ぶ。日本からは、ピースボート、クバポン（日本キューバ連帯委員会）、日本キューバ友好協会、民医連、そしてキューバ友好円卓会議と、総勢約 17 人が参加した。

近くの席にはインド、韓国、バングラデシュの人たちが見える。キューバからは、ICAPのメンバーや、自由の身となった5人の「英雄」の一人、アントニオ・ゲレロ・ロドリゲス氏が馳せ参じた。夜の歓迎夕食会では、USA代表と隣り合った。

会議第1日目は、全体会と分科会。全体会では各国代表のスピーチが相次ぐ。二つの分科会テーマは次のよう。

- ①キューバ発展の障壁である、経済、金融、貿易封鎖を除去するための友好連帯組織の役割について。
- ②キューバの社会、政治、経済の現実を、メディアを介して知らせるさまざまな方策の連帯強化について。

キューバを介してアジアの人々と交流

第2日目は、分科会報告と質疑応答、討論。最後にハノイ宣言の採択。会議のほとんどの司会を、ICAPの女性総裁ケニア・セラノ・プイグさんが担っていて、その見事な交通整理が印象的だった。

宣言文を読み上げたのは、ピースボートの松村真澄さん（円卓会議メンバー／写真左）。ケニアさんや副総裁のアリシアさんに会った途端、頼まれたとのこと。

このような会議に初めて参加して感じたことは、距離的にキューバから遠いアジアで、キューバの主張の正当性がしっかりと受け止められている現実だ。

私がテーマとして目新しいと感じたメディアの問題は、日本においてこそタイムリーに思う。最近キューバ取材が増えているが、米国の経済封鎖のいきさつを全く無視して、体制が違うがゆえにそうになっていると、ひどく緩く伝えて

いる番組があって、驚きあきれ返ったものである。

キューバを介して、沢山のアジアの国の人々と、顔の見える関係で繋がりがあえるのも不思議で楽しい。韓国の人にバッジをプレゼントされた。セウォル号の事故の真相究明を求め、犠牲者を忘れないためのものという。

ハノイ宣言は言う。グアantanamo基地返還、経済封鎖の解除、キューバの現実を伝える闘いはこれからと。確実に、その思いは参加者全体のものとなった。

東京国立近代美術館フィルムセンター 展示室（企画展）

キューバの映画ポスター

竹尾ポスターコレクション所蔵作品を中心に、革命期から1990年前後までに制作された85点の映画ポスターを紹介

2016年1月7日(木)～3月27日(日)

開館時間 11:00-18:30（入室は18:00pmまで） 休室日：月曜日

後援 駐日キューバ共和国大使館

会場 東京国立近代美術館フィルムセンター

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6 / 東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分 / 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分

観覧料 一般210円（100円） / 大学生・シニア70円（40円） / 高校生以下及び18歳未満、障害者（付添者は原則1名まで）、MOMAパスポートをお持ちの方、キャンパスメンバーズは無料

トークイベント

1月16日(土) キューバの映画状況とポスター

会場 展示室ロビー（7階）

講師 岡田秀則 フィルムセンター主任研究員

寺島佐知子 キューバ映画研究者

2月6日(土) キューバ映画の過去と現在

会場 展示室ロビー（7階）

講師 比嘉世津子 映画配給会社Action Inc.代表

太田昌国 ラテンアメリカ現代史研究者

3月26日(土) 展示品解説

講師 フィルムセンター研究員が展示品を解説いたします。

★1月16日から2月28日までの土・日曜には関連上映企画

「キューバ映画特集 革命映画から映画革命へ」開催。

テーマ キューバ共和国&キューバの医療と福祉

講師 安田 清さん 医師

報告 小蓬原千津留 (こふつはら ちづる／ルピナス会理事長)

安田清さん



「住みたいと思った」など100名以上から感想

この春、キューバ友好円卓会議主催のキューバツアーに参加しました。「雨と涙の100万人メーデー」に感動し、キューバに魅了され、もっともっとキューバの魅力を広く伝えたくて、地元鹿児島で毎年行っているチャリティコンサートで、ツアー同行の安田清先生に静岡よりはるばるおいいただき、ご講演をいただきました。

テーマは「キューバ共和国&キューバの医療と福祉」。講演の骨子は以下のとおりです。

- ①キューバの歴史
- ②14日間のツアー報告を通してキューバ紹介
- ③キューバの医療と福祉

会場の肝付町文化センターには550名のお客さま。そのほとんどの方にとって、キューバはなじみのうすい国だったと思いますが、スクリーンの映像や、わかりやすい安田先生のお話を通して、キューバの実情について興味をもっていたのだと思います。

アンケートでは、「日本に無いキューバの医療のすばらしさ」、「本当の豊かさとは何か」、「キューバに行ってみよう」、「住みたいと思った」など、100名を超える多くの方の感想がありました。



鹿児島市にはキューバクラブ（西村富明会長）があり、そのメンバーで、フォルクローレを愛する「ロス・ポンチョス」の皆さんに、「コンドルは飛んでいく」などのラテン音



ロス・ポンチョスの演奏

楽で、キューバ紹介を盛り上げていただきました。また、関東から5名のキューバツアー仲間の皆さん（写真左下）が安田先生に同行して鹿児島まで来て下さいました。安田先生のお人柄を慕っての応援隊といったところで、このチャリティコンサートを盛り上げていただき、感謝の念でいっぱいでした。



ルピナス会とキューバのうれしい縁

ルピナス会は、主に精神的なハンディをかかえた方々の就労支援の作業所です。地域の方々との交流を目的に毎年コンサートを開いていますが、キューバという地球の裏側にある遠い国ともご縁ができたことをとてもうれしく思います。ルピナス会のメンバーたちは「恋するマカレナ」というラテンの曲を踊っています。

今、国民文化祭が鹿児島で開催されていますが、障害者文化祭の部で踊ることになっています。

第11回

メーデー国際ブリガーダのご案内

2016年4月25日～5月9日

親愛なる友人の皆さん

キューバ諸国民友好協会（ICAP）と旅行代理店 Amistur Cuba S.A.は、第11回メーデー国際ブリガーダへの参加募集を開始いたします。

参加者は、ボランティアワークに加えて、歴史的・社会的場所への訪問、私たちの現状をテーマにした講演会、様々な団体の代表者、他の参加者、キューバの労働者や労働組合員たちとの交流、プログラムの一環としてのサンクティ・エスピリトゥス州への訪問などを体験します。

ブリガーダは4月25日から5月9日まで、ハバナ、アルテミサ、サンクティ・エスピリトゥスで開催されます。下記にプログラム全体が記載されています。社会主義計画の経済モデル刷新として行われている様々な変化の中にある今日のキューバの現実について幅広い知識が得られるでしょう。

参加費は**385 CUC**。フリオ・アントニオ・メヤ国際キャンプ場の6人部屋（シェアルーム）での宿泊と、サンクティ・エスピリトゥス州のホテルでのツインまたはトリプルルーム（空き状況による）、1日3回の食事、プログラムに含まれる活動の移動費が含まれています。

事前にブリガーダへの参加を知らせておくことが非常に重要です。というのはフリオ・アントニオ・メヤ国際キャンプ場の定員が240名だからです。定員を超えた場合は、キャンプ場近郊の2つ星ホテル・ラス・ヤグルマスのツインルームに宿泊していただくことになり、参加費もその分高くなります。

全14泊のうち、11泊はハバナから45キロのアルテミサカ州カイミート市にあるフリオ・アントニオ・メヤ国際キャンプ場（CIJAM）に滞在し、3泊はサンクティ・エスピリトゥス州のホテルに滞在します。

ブリガーダ参加者はプログラム全ての活動へ参加するほか、キャンプ場のルール、適切な振る舞い、規律を守り、責任ある態度、集団生活への順応が求められます。

申込み締切日は**2016年3月30日**。参加希望者は締切日までに、パスポート情報とキューバへの出入国日ならびに航空機便名を連絡してください。

皆さんのご参加をお待ちしています。

友情をこめて、
キューバ諸国民友好協会（ICAP）

連絡先（参加コンファームはこちら）

ICAPアフリカ中東局

e-mail: africa.anglofono@icap.cu

africa.occidental@icap.cu africa.lusofono@icap.cu

旅行会社 Amistur Cuba S.A.

e-mail: amistad@amistur.cu coventas2@amistur.cu

旅行会社 Amistur 提供のサービス

【含まれるもの】

宿泊

フリオ・アントニオ・メヤ国際キャンプ場（CIJAM） 11泊
サンクティ・エスピリトゥス州のホテル 3泊

その他のサービス

ツアーガイドによるアテンド
プログラムに含まれる訪問やアクティビティ

【含まれないもの】

旅行保険（各自で加入することが義務付けられています）

パッケージに含まれない食事

国内外の航空運賃

空港税

荷物超過料金

アルコール、ソフトドリンク、ミネラルウォーター代

個人的な国内および国際電話代

Amistur はプログラムの時間外に、さまざまな観光オプションツアーをご用意しています。

【ブリガーダ参加申し込み】

参加者のフルネーム（ローマ字表記）、パスポート番号、キューバへの入国／出国の日程と航空機便名をキューバ大使館へ送ってください。

送り先

tcultura@ecujapon.jp Tel: 03-5570-3182 友好部：森苑
キューバ入国前に有効な旅行保険に加入しておくことは、国外に住む全ての旅行者に義務付けられています。保険はキューバを対象国に含めているものでなければなりません。

第11回 メーデー国際ブリガーダ プログラム

4/24（日）

各国代表団到着

フリオ・アントニオ・メヤ国際キャンプ場（CIJAM）へ移動、宿発

4/25（月）

07:00 朝食

09:00 キャンプ場内のフリオ・アントニオ・メヤ胸像へ献花

09:30 ブリガーダの開始行事

10:30 講演「キューバの現状についてのアップデート」

12:00-13:30 キャンプ場にて昼食

14:30 講演「キューバの外交政策」

18:00 キャンプ場にて夕食

20:00 歓迎文化アクティビティ

4/26（火）

06:00 朝食

06:45 朝会

07:00-11:30 農作業

12:00-13:30 昼食

14:30 アントニオ・ゲレーロの絵画展オープニング

15:00 各国代表による打ち合わせ。（他の人は自由）

18:00 夕食

20:00 （Amistur によるオプションツアー）

4/27（水）

06:00 朝食

06:45 朝会

07:00-11:30 農作業
12:00-13:30 昼食
14:00 キューバの様々な組織とグループミーティング
*キューバ共産党青年同盟 (UJC)
*大学生連合
*革命防衛委員会
*キューバ女性連盟
18:00 夕食
20:00 キューバ映画上映会

4/28 (木)

06:00 朝食
06:45 朝会
07:30-11:30 農作業
12:00-13:00 昼食
13:30 ハバナへ出発
14:30 グループに分かれて訪問
Aグループ: 革命博物館
Bグループ: 美術館
Cグループ: ホセ・マルティ記念館
ハバナで自由時間
18:00 友好の家 (Casa de La Amistad) にて夕食
21:00 キャンプ場へ戻る

4/29 (金)

07:00 朝食
08:30 アルテミサへ出発 (州開発に関する情報)
グループに分かれて訪問
Aグループ: 革命殉死者の慰霊碑
Bグループ: 生産者協同組合
Cグループ: 農場
12:30 昼食
13:30 ラス・テラスのレクリエーションセンターでツアーや滞在
17:30 キャンプ場へ戻る
18:00-19:30 夕食
20:30 自由行動

4/30 (土)

06:00 朝食
06:45 朝会
07:00-11:30 農作業
12:00-13:30 昼食
14:30 ミーティング
18:00 夕食
夜: メーデー集会の準備とドキュメンタリー上映

5/1 (日)

04:00 朝食
05:30 革命広場へ出発
07:00 メーデーの集会に参加。終了後 キャンプ場へ戻る。希望者はハバナに残って自由時間。AMISTUR によるオプションツアー
17:00 キャンプ場へ戻る。希望者はハバナへ残る
18:30 夕食

5/2 (月)

07:00 朝食
08:00 国際会議場へ移動。キューバ国際連帯集会へ参加
昼食
14:30 キャンプ場へ戻る。Amistur によるオプションツアー
16:00 スポーツアクティビティ
18:30 夕食
20:00 キューバ映画上映会

5/3 (火)

06:00 朝食
06:45 朝会
07:30-11:30 農作業 (最終回)
12:00-13:00 昼食
14:00 各国代表者ミーティング。その他の人は自由時間
18:00 夕食
20:00 プリガーダ参加者によるそれぞれの国でのキューバとの連帯活動についての経験談の交流会

5/4 (水)

05:30 朝食
07:00 ビジャクララへ出発。チェ・ゲバラ廟訪問
12:00-14:00 ICAP ビジャクララ支部にて昼食
15:00 サンクティ・エスピリトゥス州へ出発
18:00 アルテミサの殉死者廟にて州当局による公式歓迎
ロス・ラウレレス・ホテルに宿泊
19:00 ホテルにて夕食
文化アクティビティ
21:00 革命防衛委員会(CDR)にて地元の人々と交流

5/5 (木)

07:00 ホテルにて朝食
08:30 ヤグアハイ市へ出発
09:30 カミロ・シエンフエゴス記念館公式歓迎会
献花式。カミロ・シエンフエゴス国立記念館訪問
バティスタ独裁当時軍の駐屯地だった総合病院訪問
キューバ革命軍戦士たちと懇談
12:30 サンホセデロスラゴス・リゾート内のホテルにて昼食
15:00 サンクティ・エスピリトゥスへ戻る
19:00 ホテルにて夕食

5/6 (金)

07:30 ホテルにて朝食
08:30 地域のクレジットサービス協同組合訪問
協同組合ツアーと持続可能な農業についての説明
12:00 昼食
14:30 キューバ作家・芸術家協会 (UNEAC) 訪問
19:00 ホテルにて夕食
20:30 革命防衛委員会 (CDR) にて地元の人々と交流

5/7 (土)

07:00 朝食
08:00 チェックアウト。ハバナへ戻る
ビジャクララで昼食/キャンプ場で夕食

5/8 (日)

08:00 朝食
09:30 国別・地域別に分かれてプリガーダ参加者とICAP担当者でプリガーダについての評価とキューバへの連帯運動における新たな行動と計画についての意見交換
12:00-13:00 昼食
14:00 プリガーダ閉会集会。最終宣言採択。
19:00 夕食
21:00 サヨナラ文化アクティビティ (キューバンナイト)

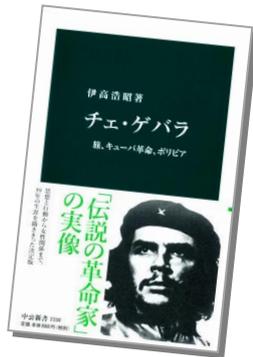
5/9 (月)

朝食。それぞれの国への帰国の途につく

『チェ・ゲバラ 旅、キューバ革命、ボリビア』

伊高浩昭 著 中公新書 定価本体 880 円 (税別)

1967年10月9日チェ・ゲバラは、ボリビアにおいて殺害された。ちょうど、世界はベトナム反戦運動のさなかにあり、ゲバラ自身「二つ、三つ、数多くのベトナムを！」を書き、彼自身もう一つのベトナムを南米に構築しようと考えていた矢先だった。2017年10月は、没後50周年を迎える。



本書は、ラテンアメリカの取材活動を始めた著者が、メキシコで彼の死の報に接して以来、半世紀の取材を経て書かれた書である。これまで、チェ・ゲバラに関する本や映画は数多くあるが、本書はゲバラをめぐる家族をはじめとした関係者たちのインタビューや記録などを織り交ぜて書かれ、これまで私たちの知ることのなかった「ゲバラ像」が明らかにされている。「神話化され偶像視されたチェ・ゲバラでない」生身のゲバラを読み取ることができる。本書の副題は、「旅、キューバ、ボリビア」となっており、革命家となるきっかけとなった南米の旅行、そしてカストロとの出会い、キューバ革命、その後のコンゴでの戦い、最後となるボリビアでの戦いが書かれている。

内容の詳細については、本書を読んでもらいたいが、二点だけ記しておきたい。

一つは、カストロがゲバラの書いた「別れの手紙」を改竄して発表したことである。ゲバラは、1965年3月に、「別れの手紙」を書きカストロに手渡し、キューバを離れた。カストロはその手紙を同年9月に公表するにあたって、最

後のところを「私は勝利するまでキューバに戻らない、だがいつも私の心には<祖国が死か、勝利するのだ>の標語がある」を「永遠なる勝利まで」と変えて、意味をぼかしたものとなっている。これについては、ゲバラのアルジェでのソ連批判の演説があり、これに不信を抱いたソ連に配慮して、カストロが「勝利しても帰れないように」したためと著者は解釈している。

もう一つは、ゲバラが南北アメリカ大陸を一つの祖国として考えていたことである。ラテンアメリカは、米国が勝手に「アメリカ」を国名に被せ、大陸全体の名称を独り占めしたことを不快に思っている、という。南北アメリカ大陸全体が自分たちの「大きな祖国」であり、それぞれ属している国が「小さな祖国」とシモン・ボリバル以来考えられてきており、ゲバラは、「小さな祖国」アルゼンチンで、革命を起こすことを最終目標としていた。しかし、ゲバラはボリビアのアンデス山中でのゲリラ戦に敗れたため最期を遂げてしまった。著者は、「チェが率いたELN(ボリビア民族解放軍)の武闘は、革命キューバが国際共産主義運動に与えた最大の貢献だった」と述べ、「挫折した悲劇の革命家は、処刑され滅びたことにより、求道者の悲壮な宿命と、『見果てぬ夢』の象徴として繰り返し蘇る」と述べており、ゲバラに対する著者の思いが描かれている。

今までいるいろいろな形でゲバラに触れてきた私たちに新書という形で、詳細な記述を示してくれた本書は、これまでとは違うゲバラ像を私たちに与えてくれるものとなっている。そして、今国交を回復したキューバとアメリカは、新しい関係を築こうとしているが、私たちは改めてどこまでキューバが「社会主義体制」を維持できるのかを注意深く見守っていきたいと思う。(大賀達雄)

キューバからの
礼状

ビジャクララ州保健局副局長のサンタナ・ペレス・イダさんから届いた円卓会議会員あての寄付への礼状を、富田君子さんに翻訳していただきました。キューバで誠実に対応してくれていることが分かり、寄付をいただいた方にもご報告できて、嬉しいです。ビジャクララI CAPのイリスさんからは、これらの情報を、ずっとキューバの人々を支援してくれているキューバ友好円卓会議の皆さんに、感謝の意を込めて伝えてほしいとのメッセージがありました。(加藤玲子)

サンタクララ 2015年6月5日 “革命75周年の年”

拝啓

サンタクララ市からの熱いご挨拶をお受け取りください。

キューバ友好円卓会議の皆さんが、再びわれわれの市を訪ねてくれました。われわれは大きな喜びをもって彼らを迎え、わが州の医療の現状をお伝えしました。ビジャクララの医療を引き続き充実させていくようにと貴殿が送ってくださった寄付金を、連帯のあかしとして引き渡すというミッションをもって、加藤玲子さんをはじめわれわれの友人たちが、また訪ねて来てくれたのです。

1000万円に上るこの寄付金を、大きな喜びをもって受け取りました。それは、サンタクララ市のアルナルド・ミリアン・カストロ病院とホセ・ルイス・ミランダ小児病院の救急サービス部門の施設改修のために使われることになっています。わが国の医療システムにとって医療機関の施設条件の改善は、引き続き優先課題の一つになっているからです。

寄贈式に参集した両病院の医師や指導者の前で、友人の加藤玲子さんが代読してくださった貴殿の連帯精神にとんだ美しい手紙に対しても、われわれの感謝の意を表します。

貴殿の人間的な、そして連帯精神に富んだこの寄贈に感謝いたします。当州保健当局は寄贈者である貴殿の意向に沿うように、この支援金を使用することをここに再度確認いたします。

キューバ、ビジャクララより愛をこめて
ビジャクララ州保健局 副局長 サンタナ・ペレス・イダ